

Title	医薬品の需要構造分析
Sub Title	
Author	梅田 一郎(Umeda, Ichirou) 古川公成
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1986
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1986年度経営学 第460号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001986-0460

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 梅田 一郎 主査 古川 公成
(台糖ファイザー株式会社) 副査 小野 桂之介
所属ゼミナール 古川 公成 研 青井 倫一

医薬品の需要構造分析

本研究では、医薬品は疾病を克服するための多様な医療技術の一つを構成するものであるとの視点に立って、特定の疾病に注目し、その医療の歴史の中で医薬品が果たした役割を整理することによって、医薬品に対する需要の仕組みを検討した。

分析の対象とした疾病は結核である。この疾病を選定した理由は、患者数が多く、社会生活への影響が重大な疾病であったこと、そして受療率や死亡率で見た場合に疾病としてのライフサイクルをほぼ終わっており、疾病の歴史的展開と医薬品の需要を対比して検討することができるという2点にあった。

しかし、我が国で結核が猛威をふるった時代から今日に至るまでに、疾病や医療の周辺で情勢は大きく変化し、これに伴って医薬品需要に影響を与える諸要因とその相互関係は複雑さが増したものと見受けられる。人口の変化、医療保障行政の変化、および技術進歩については、それぞれの医薬品需要との関連について別に章を設けて分析を加えた。

研究の結果次のことが分かった。

- (1) 結核の死亡率、受療率の低下を可能にしたのは、集団検診のシステム、病床の確保、レントゲン技術の進歩、抗結核薬の発見、および医療保障制度の充実など多様な医療技術の複合的成果であった。
- (2) 抗結核薬の需要は、上記の疾病ライフサイクルの変化に影響を及ぼした多様な要因のほか、新剤型の追加、新薬の開発及び生産能力の向上など、企業の競争行動によっても影響された。その結果、抗結核薬の需要変化のグラフは、死亡率や受療率のような滑らかなライフサイクルを描かなかった。

さらに近年薬効別医薬品の需要の成長率に格差が見られていることについても患者数の変化、医療技術の進歩、医療保障制度との関係から触れている。